

演奏を録音する

機能説明

通常のエレクトーン演奏の録音やレジストレーションのデータの記録ができます。

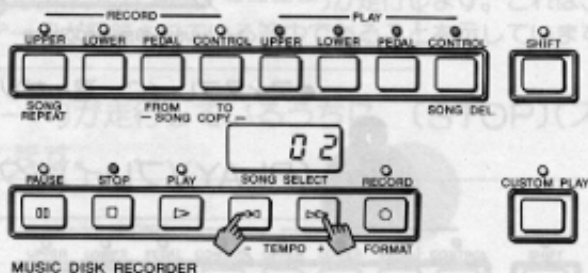
操作方法

1

演奏に使用するレジストレーションを、レジストレーションメモリーに必要なだけ記憶させます。

2

〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、録音したいソングナンバーを選びます。

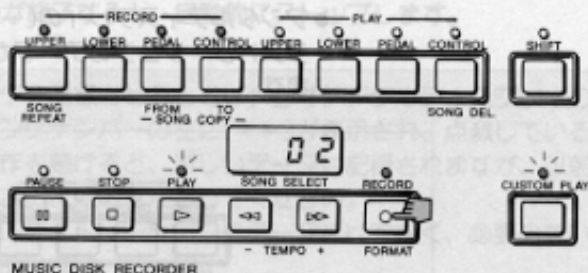


- ソングナンバーは1～40番まであります。

〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して選びます。

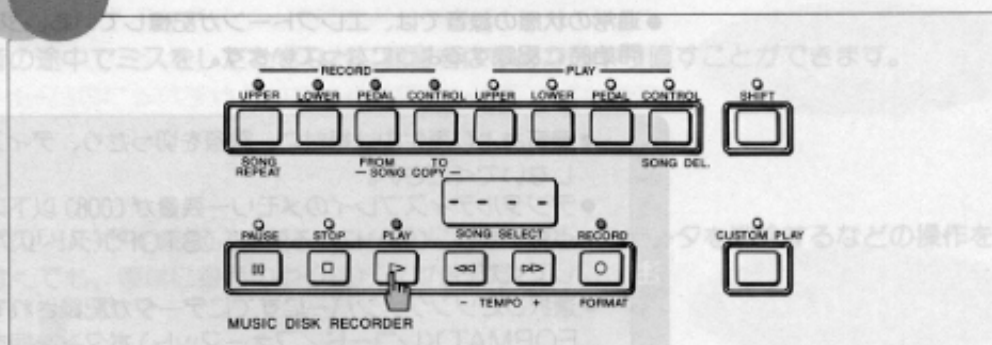
3

〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押します。

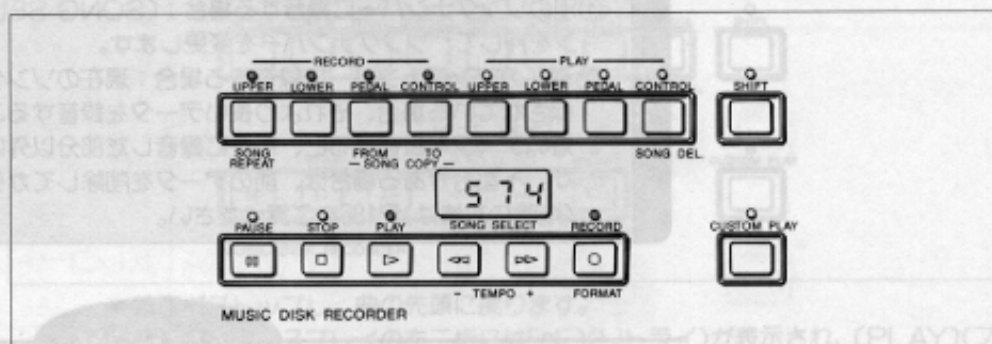


- 〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点灯し、録音できる状態になったことを示します。このとき、〔PLAY〕(プレイ)ボタンと〔CUSTOM PLAY〕(カスタムプレイ)ボタンのランプは赤く点滅します。
- レコードセクションでは、すべてのボタンのランプが点灯しています。これはすべての鍵盤の演奏が録音できる状態であることを示しています。各ボタンの機能についてはP160の「いろいろな録音のしかた」で説明します。

録音をやり直します。(PLAY)(プレイ)ボタンを押します。



- (PLAY)(プレイ)ボタンが点灯し、デジタルディスプレイでは(----)が左から右へ走行します。これは現在エレクトーンが記憶しているレジストレーションのデータがディスクに記録されていることを示します。

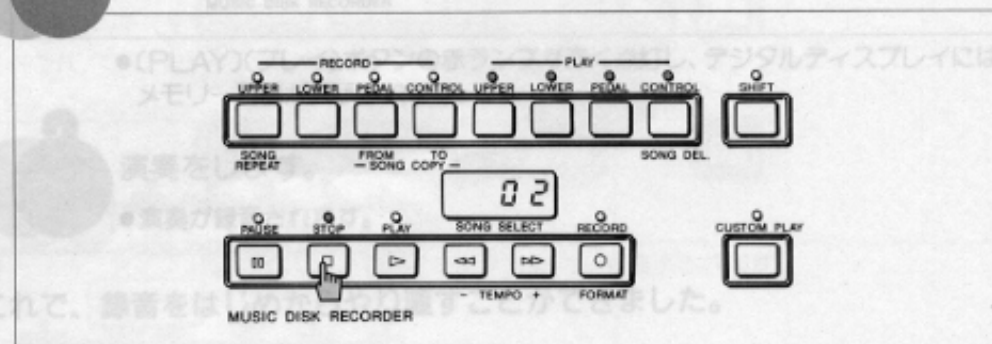


- レジストレーションの記録が終了すると、デジタルディスプレイはメモリー残量表示に変わります。

最初に使うレジストレーションメモリーのナンバーボタンを押します。

演奏を開始します。

演奏が終了したら、(STOP)(ストップ)ボタンを押します。



- (STOP)(ストップ)ボタンを押すと、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンと(PLAY)(プレイ)ボタンの赤ランプが消え、ストップ状態に戻ります。

これで、演奏が録音できました。

♪ 操作のポイント

- 通常の状態の録音では、エレクトーンが記憶しているレジストレーションのデータを、録音開始時に記録するようになっています。

注

- 録音および再生中は絶対に、電源を切ったり、ディスク取り出しボタンを押したりしないでください。
- デジタルディスプレイのメモリー残量が(008)以下になると、メモリー残量表示が点滅します。(000)になる前に、(STOP)(ストップ)ボタンを押して、録音を中止してください。
- 選択したソングナンバーにすでにデータが記録されている場合は、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押すと、デジタルディスプレイの二桁に(--)が表示され、ソングナンバーとともに赤く点滅します。次のように対処してください。

意

- ①別のソングナンバーに録音する場合：(SONG SELECT)(ソングセレクト)ボタンを押して、ソングナンバーを変更します。
- ②現在のソングナンバーに録音する場合：現在のソングナンバーにすでにデータが記録されている場合、それより長いデータを録音することはできませんが、それより短いデータを録音すると、新たに録音した部分以外は前のデータがそのまま残ります。不都合がある場合は、前のデータを削除してから録音してください。(削除の方法は)P185をご覧ください。

こんなこともできる

- レジストレーションのデータをディスクに記憶させないで、すぐに演奏の情報だけを録音したい場合は、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押してから、(CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンを押してください。

■録音をやり直す(リトライ)

機能説明

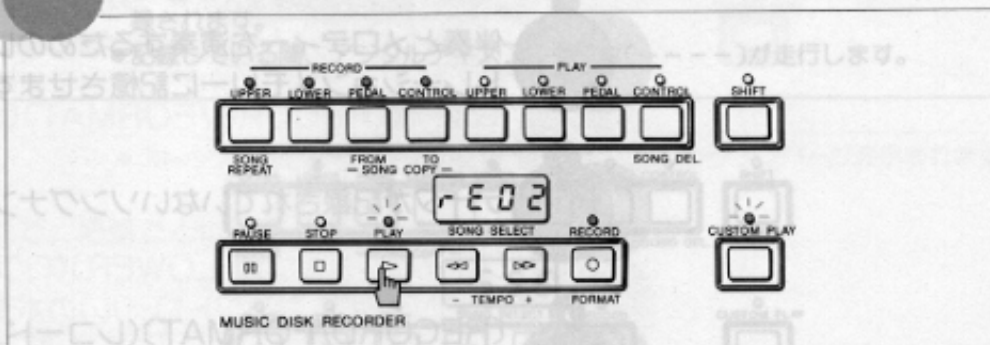
録音の途中でミスをしたときなどに録音をはじめからやり直すことができます。

操作方法

以下の「リトライ機能」を使うと、一度ソングナンバーのデータを削除するなどの操作をしなくても、簡単に録音のやり直しができます。

1

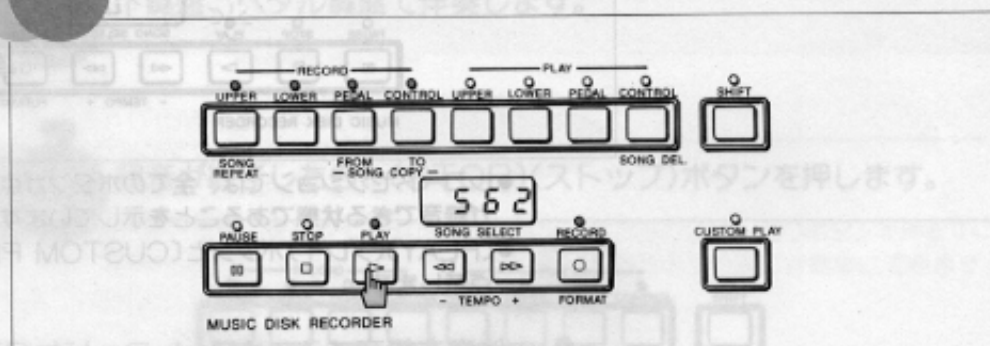
録音の途中で(PLAY)(プレイ)ボタンを押します。



- 録音がストップし、曲の先頭に戻ります。
- デジタルディスプレイの左二桁には「rE」(リトライ)が表示され、(PLAY)(プレイ)ボタンと(CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンの赤ランプが点滅します。

2

再び(PLAY)(プレイ)ボタンを押します。



- (PLAY)(プレイ)ボタンの赤ランプが赤く点灯し、デジタルディスプレイにはメモリー残量が表示されます。

3

演奏をします。

- 演奏が録音されます。

これで、録音をはじめからやり直すことができました。

こんなこともできる

○アッパー、ロワー、ペダル、コントロール、キーボードパーカッション各々のリトライを行なうこともできます。手順1の時点で、リトライするパートの(RECORD)(レコード)ボタンのみ点灯させてください。

いろいろな録音のしかた

エレクトーン演奏の録音方法を紹介します。目的によっていろいろなパターンを試してみてください。

■鍵盤ごとに録音する

機能説明

エレクトーンの演奏を各鍵盤ごとに録音することができます。

録音する鍵盤の選択はレコードセクションとプレイセクションで行います。レコードセクションとプレイセクションにはそれぞれ4つのパートがあります。UPPERは上鍵盤、LOWERは下鍵盤、PEDALはペダル鍵盤に対応しています。CONTROLはエクスプレッションペダルやレジストレーションメモリーの切り替えなどを記録するためのパートです。

操作方法

伴奏を録音した後で、上鍵盤のメロディーを録音する例を説明します。

(まず下鍵盤、ペダル鍵盤による伴奏を録音します)



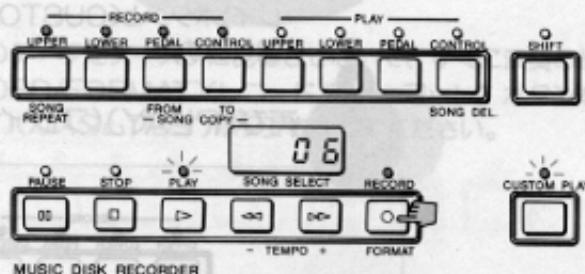
1 伴奏とメロディーを演奏するためのレジストレーションをレジストレーションメモリーに記憶させます。



2 データが記録されていないソングナンバーを選びます。



3 (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。

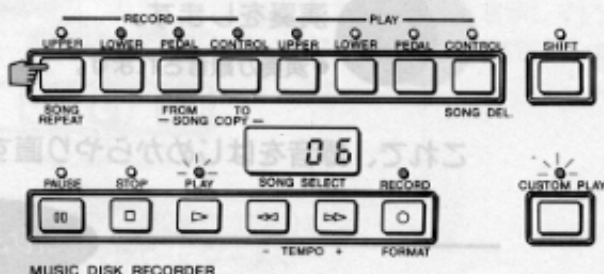


●レコードセクションでは、全てのボタンが点灯しています。これは全ての鍵盤が録音できる状態であることを示しています。

●(PLAY)(プレイ)ボタンと(CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンが点滅します。



4 伴奏を録音するために、レコードセクションの(UPPER/SONG REPEAT)(アッパー/ソングリピート)ボタンを押してランプを消します。

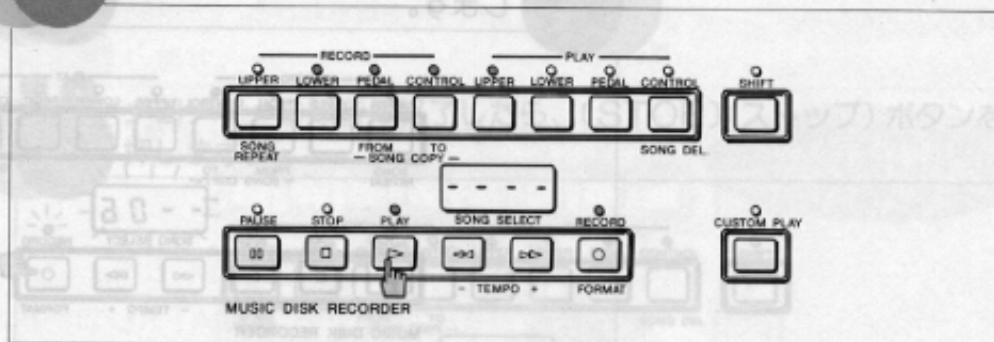


●レコードセクションの(LOWER)(ロワー)ボタン、(PEDAL)(ペダル)ボタン、(CONTROL)(コントロール)ボタンのランプが点灯します。

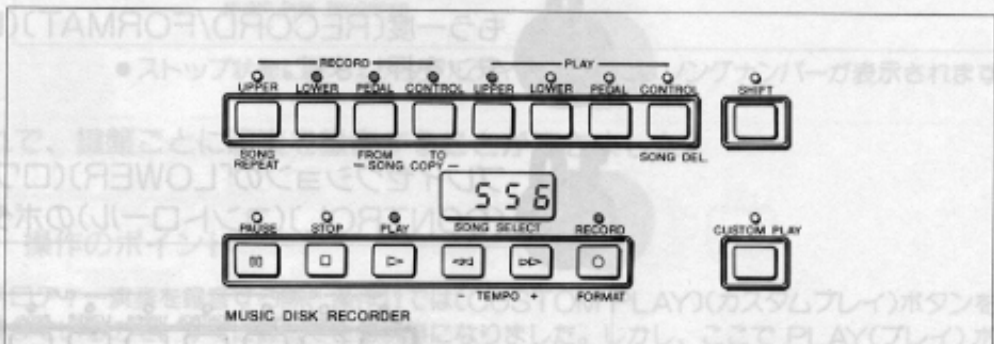
●プレイセクションの(UPPER)(アッパー)ランプが点灯します。

5

〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



- 〔PLAY〕(プレイ)ボタンの赤ランプが点灯し、レジストレーションデータが記録されます。
- 記録している間、デジタルディスプレイでは(――)が走行します。



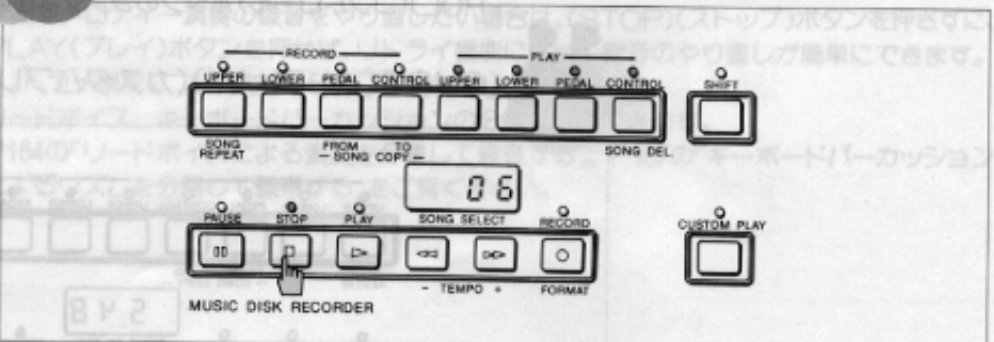
- レジストレーションデータの記録が終了すると、デジタルディスプレイはメモリー残量表示に変わります。

6

下鍵盤、ペダル鍵盤で伴奏します。

7

録音が終了したら、〔STOP〕(ストップ)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイにはソングナンバーが表示されます。

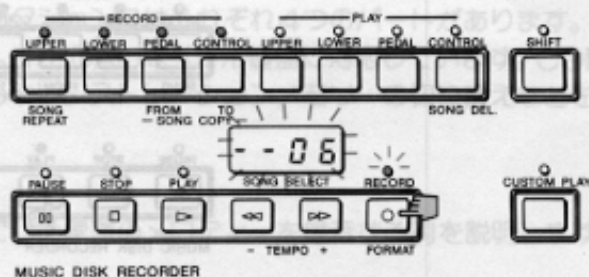
(次に上鍵盤のメロディー演奏を録音します。)

メロディー演奏を録音するときは、再生中の伴奏をよく聴いて、タイミングよくメロディー演奏を開始してください。リズムのイントロを録音しておいた場合は、まず最初にイントロが発音します。弾きは最初のタイミングをうまくとってください。

いろいろな録音のしかた

エレフとーン演奏の録音方法を紹介します。目的によっていろいろなバターンを試してみてください。

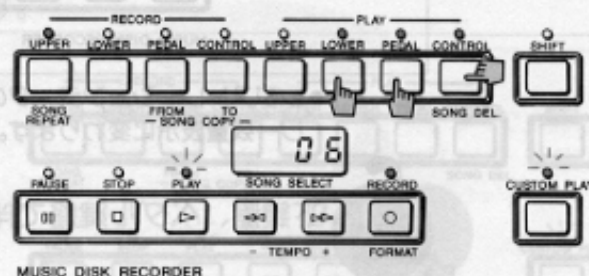
⑧ (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- すでに伴奏は録音済みなので、デジタルディスプレイの左側に(---)が表示され、ソングナンバーとともに赤く点滅します。

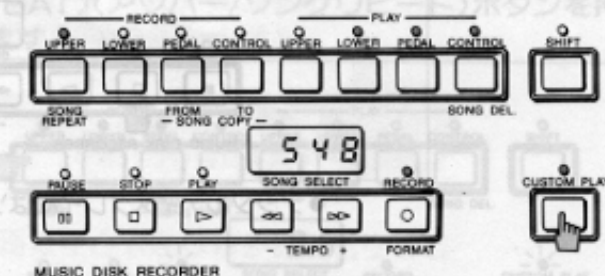
⑨ もう一度(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。

⑩ プレイセクションの「LOWER」(ロワー)、(PEDAL)(ペダル)、(CONTROL)(コントロール)のボタンを押します。



- プレイセクションの(LOWER)(ロワー)、(PEDAL)(ペダル)、(CONTROL)(コントロール)ボタンの赤ランプが点灯します。
- レコードセクションの(LOWER)(ロワー)、(PEDAL)(ペダル)、(CONTROL)(コントロール)ボタンのランプは自動的に消灯します。

⑪ (CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイにメモリー残量が表示されます。
- すでに録音済みの伴奏と、エキスプレッションが再生されます。
- このときレコードセクションの(UPPER)(アッパー)ボタンが赤く点灯しているかどうかを確認してください。

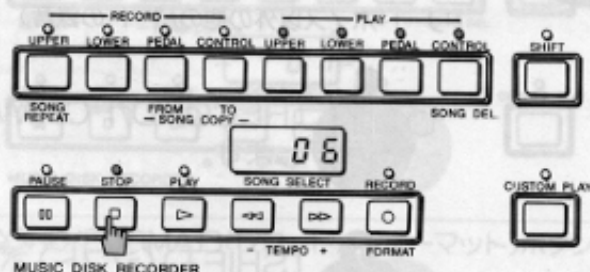
●プレイセクションの(UPPER)(アッパー)ランプが点灯します。

18

エレクトーンの上鍵盤を弾いて、メロディーの録音を開始します。

18

メロディーの録音が終了したら、〔STOP〕(ストップ) ボタンを押します。



- ストップ状態に戻り、デジタルディスプレイにはソングナンバーが表示されます。

これで、鍵盤ごとに演奏を録音することができました。

♪ 操作のポイント

- メロディー演奏を録音する際、操作11では〔CUSTOM PLAY〕(カスタムプレイ) ボタンを押しているため、すぐに録音できる状態になりました。しかし、ここで PLAY(プレイ) ボタンを押して録音すると、レジストレーションデータがもう一度記録されるため、メモリー残量表示になるまで待たなければなりません。

注意

- メロディー録音の長さは、はじめに録音した伴奏の録音の長さと同じになります。それ以上長く録音することはできません。

こんなこともできる

- 伴奏やメロディー演奏の録音をやり直したい場合は、〔STOP〕(ストップ) ボタンを押さずに、PLAY(プレイ) ボタンを押せば、リトライ機能によって録音のやり直しが簡単にできます。(リトライ機能についてはP159をご覧ください。)
- リードボイス、キーボードパーカッションの分離録音もできます。P164の「リードボイスによる演奏を分離して録音する」、P167の「キーボードパーカッションによるリズムを分離して録音する」をご覧ください。

■リードボイスによる演奏を分離して録音する

すでに録音したパートを聴きながら、リードボイスの演奏だけを録音することができます。

操作方法

まずリードボイス以外のパートを録音した後、カスタム録音でリードボイスの演奏を録音し、リードボイスを分離します。

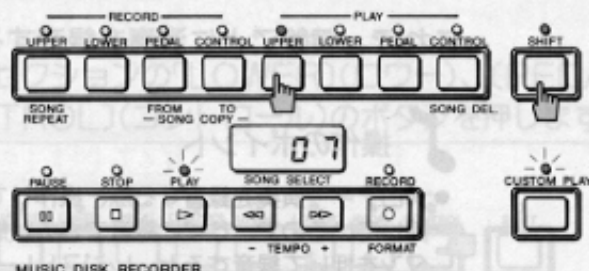
(リードボイス以外の他のパートの録音)

1

(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。

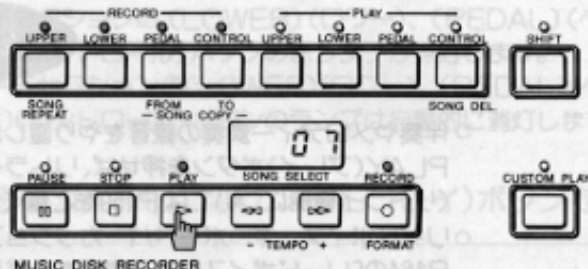
2

(SHIFT)(シフト)ボタンを押しながら、プレイセクションの(UPPER)(アッパー)ボタンを押します。



3

(PLAY)(プレイ)ボタンを押します。



●録音状態になります。

4

リードボイス以外の他のパートの演奏を録音します。

5

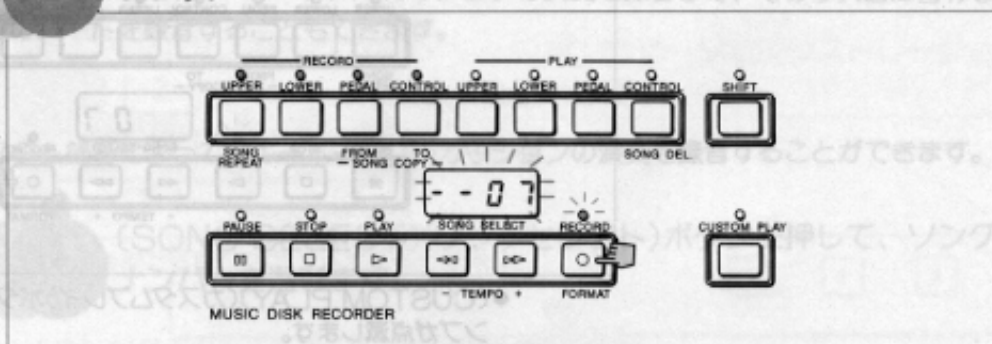
録音が終わったら、(STOP)(ストップ)ボタンを押します。

- デジタルディスプレイにメモリー残量が表示されます。
- すでに録音済みの伴奏と、エクスプレッションが再生されます。
- このときレコードセクションの(UPPER)(アッパー)ボタンが赤く点滅するかどうかを確認してください。

録音済みの他のパートを再生させながら、リードボイスを録音する。

6

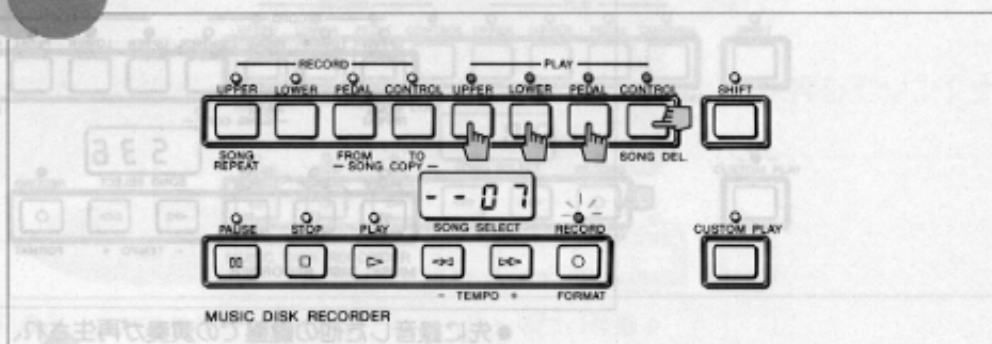
〔RECORD/FORMAT〕(レコード／フォーマット)ボタンを押します。



- 〔RECORD/FORMAT〕(レコード／フォーマット)ボタンのランプが点滅します。

7

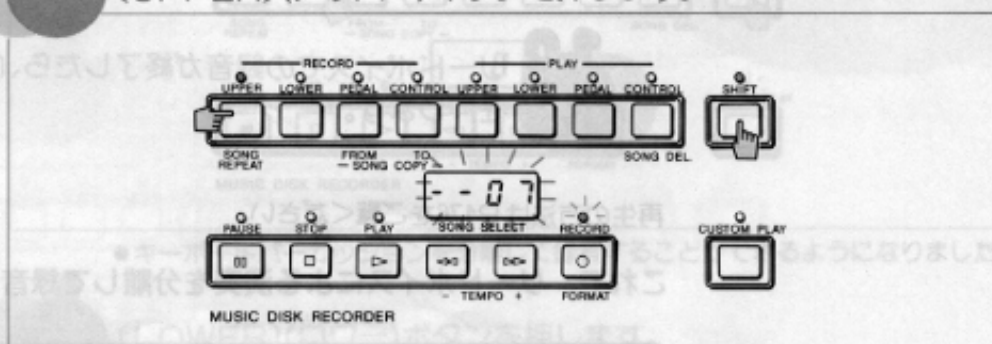
プレイセクションの全てのボタンを押します。



- プレイセクションの全てのボタンのランプが点灯すると、レコードセクションの全てのボタンのランプが消灯します。

8

〔SHIFT〕(シフト) ボタンを 押しながら レコードセクションの〔UPPER〕(アッパー) ボタンを押します。



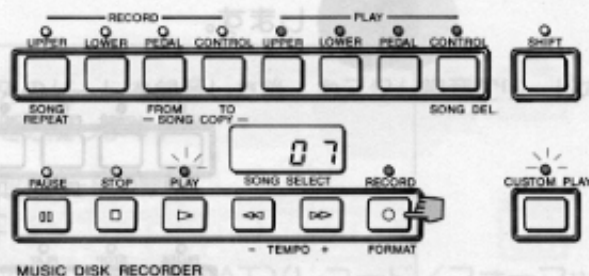
- 〔UPPER〕(アッパー)ボタンのランプが点灯します。

9

〔UPPER〕(アッパー)ボタンのランプが点灯していることを確認します。〔UPPER〕(アッパー)ボタンを離れたあと、〔SHIFT〕(シフト)ボタンを離します。

10

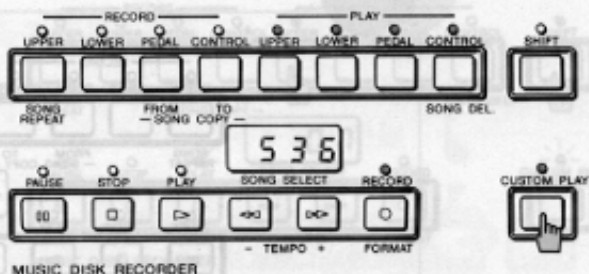
(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- (CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンと(PAUSE)(ポーズ)ボタンのランプが点滅します。

11

(CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンを押します。



- 先に録音した他の鍵盤での演奏が再生され、リードボイスでの演奏が録音できる状態になります。

12

再生される演奏を聴きながら、リードボイスの演奏をします。

13

リードボイスでの録音が終了したら、(STOP)(ストップ)ボタンを押します。

再生の方法はP176をご覧ください。

これで、リードボイスによる演奏を分離して録音できました。

注意

- この手順は、他のパートの演奏にリードボイスの演奏を重ねて録音する方法です。リードボイスの演奏だけをフロッピーディスクに録音する方法ではありません。

■キーボードパーカッションによるリズムを分離して録音する

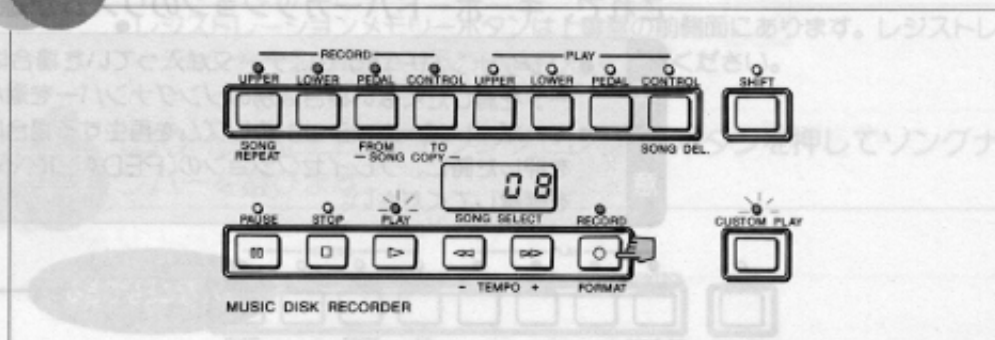
すでに録音したリズムを聴きながら、キーボードパーカッションの演奏を録音することができます。また、キーボードパーカッションの演奏を録音して、そのリズムに合わせて他のパートを録音することもできます。

操作方法

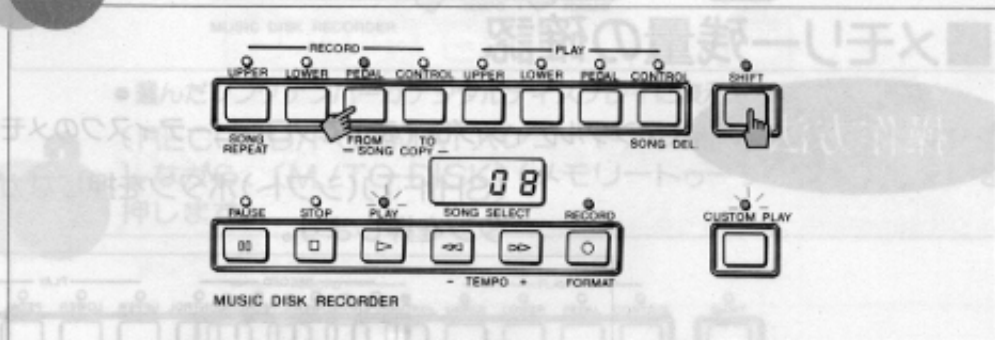
カスタム録音によって、キーボードパーカッションの演奏を録音することができます。

① (SONG SELECT)(ソングセレクト)ボタンを押して、ソングナンバーを選びます。

② (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



③ 次に (SHIFT)(シフト)ボタンを押しながらレコードセクションの (PEDAL)(ペダル)を押します。

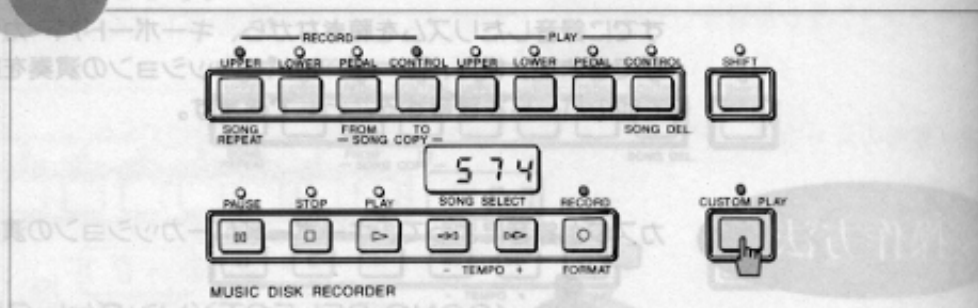


●キーボードパーカッションを分離して録音できるようになりました。

④ (LOWER)(ロワー)ボタンを押します。



5 (CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンを押します。



- ボタンを押すと、すぐに録音が始まります。

6 録音が終了したら、(STOP)(ストップ)ボタンを押します。

これで、キーボードパーカッションのリズムが録音できました。

注意

- ソングナンバーにすでにデータが入っていた場合は次の操作をしてください。データを消したくない場合は別のソングナンバーを選んでください。
- キーボードパーカッションのリズムを再生する場合は、(SHIFT)(シフト)ボタンを押した時に、プレイセクションの(PEDAL)(ペダル)ランプが点灯していることを確認してください。

こんなこともできる

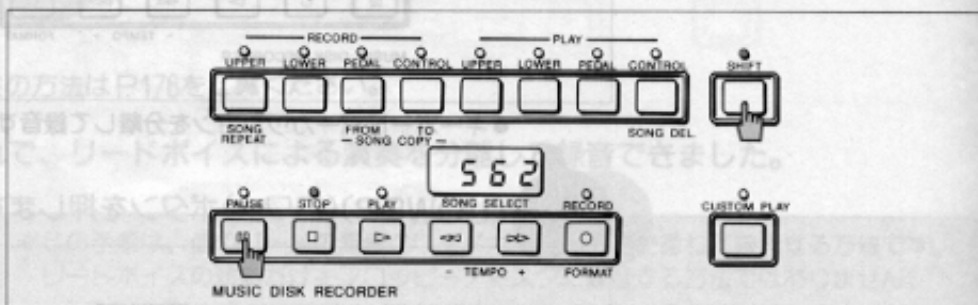
- 録音したキーボードパーカッションを聴きながら、他のパートを録音したい場合は、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを2回押した後に、(PLAY)(プレイ)ボタンを押して、他のパートを録音してください。

■ メモリー残量の確認

操作方法

デジタルディスプレイ表示でフロッピーディスクのメモリー残量を確認します。

(SHIFT)(シフト)ボタンを押しながら、(PAUSE)(ポーズ)ボタンを押します。



- ボタンを押している間、メモリー残量がデジタルディスプレイに表示されます。

注意

- メモリー残量の最大は、何も録音されていない2DDフロッピーを使用した場合で626、2HDでは1248です。
- メモリーは、録音を始めると、2メモリーずつ減少していきます。メモリーがなくなるとデジタルディスプレイの表示が(0000)になります。